

先輩たちが卒業しました

3月18日に卒業式があり、先輩たち専攻科3期生が晴れて卒業されました。先輩たちは、私たち4期生が入学した瞬間からご自分たちが卒業するまで、後輩の私たちに対し気遣いしてくれました。同じ研究室を使うようになり当初緊張していた私たちに話しかけてくれたり、研究の参考資料を私たちの分まで印刷してくれたり、研究や授業のことで相談をすると嫌な顔ひとつせずに教えてくださり、私たちは先輩たちに手を引いてもらいこの1年間を過ごしてきたのだと、振り返ってみて実感します。



先輩たちから学んだこと、また公私ともに過ごした日々は、私にとって一生の財産となりました。私たちは常に先輩たちの背中を追いかけてきましたが、今はもう巣立たれていません。それはつまり、私たち4期生が、今春入学した5期生の先輩になることを意味します。3期生のみなさんが私たちの手を引いてくれたように、私たちも見本となり、憧れられる先輩になれるよう、また、築き上げてきた専攻科の歴史を引き継ぐことができるよう、気を引き締めて残りの1年間を過ごしたいと思います。

ご卒業、ご就職おめでとうございました。

日本教育保健学会に参加しました

3月21、22日に愛知県日本福祉大学・半田キャンパスで行われた「第12回 日本教育保健学会」に参加しました。初日には川又先生と専攻科1期生の伊藤亜里紗さんが「学童保育」に関する報告を、2日目には石川先生が「養護教諭と部活動」、小川先生が「性教育」に関する研究の発表がありました。

2日間に多くの講演や発表を聞かせていただきましたが、特に私の印象に残ったのは、宮城県中学校教諭の制野先生の「被災地で行った命の授業」のお話と、愛知県高校養護教諭すぎむら先生の「性暴力」のお話です。「教員は『教える、導く』と考えがちで、『問いかけ、一緒に考える』教員が少ない」「こころとからだの問題が学力問題の後ろに追いやられている」と語られていました。養護教諭は、子どもたちの「こころとからだの問題」に真正面から向き合い、子どもたちのよりよい成長発達のために「一緒に考える」ことができる職業です。子どもたちが自ら自身の問題と向き合えるような問いかけをし、子どもたちとともに考えていける養護教諭を目指したいと思います。